

8-17 俗流経済学の役割

「俗流経済学は、ブルジョア的生産関係にとらわれたこの生産の当事者たちの諸観念を教義的に通訳し体系化し弁護論化することのほかには、実際にはなにもしないのである。だから、経済的諸関係の疎外された現象形態、そこではこの諸関係が一見してばかげたものであり完全な矛盾であるような現象形態——そしてもし事物の現象形態と本質とが直接に一致するものならばおよそ科学は余計なものであろう——、まさにこのような現象形態のもとでこそ俗流経済学はまったくわが家にある思いがするのだとしても、そしてまたこの諸関係の内的関連がおおい隠されていればいるほど、といってもこの諸関係が通常の観念にとってはなじみやすくなっていればいるほど、ますますそれは俗流経済学にとって自明に見えるとしても、そんなことはわれわれにとっては驚くにはあたらないのである。」

(大月版『資本論』⑤ P1047B8-2)